

今回は、西国街道の東に位置し、宿場町として栄えた海田町で、古民家再生と地域の交流に取り組む『&古民家』の活動取材しました。

街道のまちと古民家で広がる“仲間の輪”

レポーター ひろ記者 津森正裕、高村秀樹、加治実穂

西国街道の東、宿場町として栄えた海田町

江戸の昔、海田町は海田市と呼ばれ、西国街道（旧山陽道）沿いは宿場町として日々大勢の人や荷馬が行き交っていた。県の重要文化財である旧千葉家住宅を始めとして、町内各所に風情のある町屋が現在でも大切に残されている。所々で少し折れ曲がった道路は街道の名残りで、参勤交代の大名たちの長い行列がこの道を歩いた。

未来を見据えて、もっとまちのことを考える

海田町ふるさと館からほど近くの通り沿いにある『&古民家』。この主催者である三澤さんは普段は隣町の安芸区船越で不動産貸付業を営まれており、約1年前にこの物件を地元の知人から紹介された。

「売る気はないので是非まちのために活用してほしい」との持ち主の思いを受け近所の人たちが気軽に集まり交流できる居場所をつくるため古民家を改修することに決めた。

地域の人にも快く受け入れられるよう、町も三澤さんの活動に協力。「まさに協働のまちづくりの理想の姿です」と宮垣さん（海田町魅力づくり推進課）。

『みんなで掃除』が仲間をつくる

しかし、当時の古民家は8年前から空き家で庭は草木が伸び放題。



▲『&古民家』外観



▲向かって左から三澤さんと宮垣さん

屋敷ほどの広さの立派な母屋の柱や梁は丈夫だが、障子や縁側の床板は張り替える必要があり、荷物や家具もそのままであった。

そこで三澤さんは月に2回、定期的にSNSで呼びかけ『掃除とお茶会』を企画。すると各地から古民家や骨董古物好きな人が参加。地域の人や友人らも加わり、知っている人も初対面の人もみんなが一緒に汗をかきながら掃除をし、その後のお茶会では古民家の利用について語り合い、いつの間にか仲間の輪が広がっていった。

旅先で感じた楽しい場所を、自分の住んでいる地域にもつくる

レンタルルームにしようと考えた理由について「地域の人に使ってもらえて、この場所に人が集まって、つながって、いままで出来なかったことや難しかったことが解決するんじゃないかと思った」と三澤さんは話す。今後は、カフェや旅行者のためのゲストハウスがしたくなるような雰囲気仕掛けを考えたり環境を整えたりすることで、いろんな人が『対流』する楽しい場所にしていきたいと語ってくれた。そしてすでにそんな動きが始まっているようだ。（詳しくはFB『&古民家』で検索してみてね）

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶ <http://www.city.hiroshima.lg.jp/hirokisha/>



▲『掃除とお茶会』の様子



▲白い外壁に囲まれた大きな古民家と蔵

らっくコラム

Rashieku column

ネコ好きの聖地？広島市中区猫屋町の歴史！

ネコ好きなら一度は住んでみたい(?)、広島市中区猫屋町。広島電鉄の本川町停留所の南、土橋停留所の東にある。かつての西国街道と可部街道（雲石路）とが交わる、まさに交通の要所だった。

なぜこのような地名がついたのか。16世紀末に、加藤九郎左衛門兼鎮という人がいた。彼は、かつて府中町にあった松崎八幡宮の神職だったが、それを親戚に譲り、1580年代末、広島城下町の建設に際して当地へ移り、「猫屋」と名乗って商業を始めた。それが町名になった、…と1820年代、つまり江戸時代後期に広島藩が作成した地理書『知新集』は記している。猫屋町の横にいわず本川が流れているが、実は江戸時代には猫屋川と呼ばれていた。そこに架かる本川橋も、猫屋橋と呼ばれていた。もとなつた橋は加藤兼鎮が独力で架けたものだという。

猫屋?ネコを売買したのか?猫屋兼鎮が活躍した16世紀末から17世紀初めは、確かに、ネコに対する需要が増えていた。このころ全国各地で城下町などの都市がつくられたからだ。都市には米などの食糧が備蓄される。するとネズミが大量に発生し、食い荒らされかねない。そこで対策として人々はネコを求めた。豊臣秀吉は1591年に京都で、ネコを盗んだり、迷いネコを自分のものにすることを禁じた。徳川家康も1602年、すなわち関ヶ原で勝利し覇権を得たころ、同じく京都で同様の法を定めた。かつて広島城下町をつくり、関ヶ原で敗れ広島を離れた毛利家も、1608年に、他人のネコを捕まえるな、と命じた。ネコの争奪戦があったからこそ、それぞれの政府はこれらの法を定めたわけだ。

かの猫屋も、ネコを売買してひともうけたのだらうか?しかし一つ疑問に

つきあたる。実は秀吉・家康は先に述べた法で、ネコの売買を禁じてもいた。あわせて放し飼いにしよう命じた。つまり、ネコを自分の家の中に閉い込ませず野放しにさせることで、ネズミを退治しようとしたらしい（余談だが、これ以前の日本でネコはリードにつながれて飼われていた。『源氏物語』にもそういう場面がある）。このころの広島城下町でもネコの売買が禁じられていたかどうかは不詳だが、それにしても、橋を自前で架けられる利益が出るほどの取引量があったかどうか、疑問が残る。

そもそも猫屋=ネコ売買業者という解釈は正しいのか?『知新集』を改めて読むと、実は、「猫屋」はもとは「根小屋」と書いたという。根小屋とは、樹木の根を床板等に加工したものをいう。質の低い、安価な木材だ。広島城下町を建設するために木材の需要が増えたときに、初代ネコヤは安価な木材を売買して財をなした。ネコヤ橋も、彼が扱っていた木材を使ったものだった。材木商だったことがのちに忘れられ、「猫屋」の字があてられた、…のかも。真相やいかに?



Profile

安田女子大学 文学部

高木 久史 准教授

■専門領域：日本中世・近世経済史、博物館学

16世紀に始まるヨーロッパ中心の経済のグローバル化が日本の社会に与えた影響と、とくに貨幣システムの変化に注目して分析している。『通貨の日本史』（中公新書）は週刊ダイヤモンドベスト経済書2016にランクイン。元・博物館学芸員。もちろんネコ派。とくにミケ・茶トラ白が好き。

ようこそ！ 公民館へ

～安佐南区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。今号は、安佐南区内公民館で活動しているみなさんです。

1 古川トンボしらべ隊

佐東公民館

私たちは、昨年度より実施されている公民館の主催事業「古川のトンボ調査」に参加した、トンボや生き物をこよなく愛する有志の集まりです。小中高大学生～70代まで、幅広～い年齢層の男女で今年3月24日に発足し、広島市こんちゅう館の先生にアドバイザーとして協力を得ながら、本格的な調査を行っています。月に2回「その日に参加できる人で、無理せずゆるりと」活動をしている、出来立てほやほやの団体です。

活動場所となっている「古川」は太田川の支流で、擬木階段、玉石護岸、芝生広場、低木植樹などの整備が行われ、自然環境をそのまま活かした緑豊かな親水公園で「古川せせらぎ河川公園」として親しまれています。

多様な生物がにぎわう「古川の素晴らしさ」を、身近な昆虫「トンボ」に焦点を当て、古川で観察できるトンボの種類と、その生態を解明し発信することで、地域住民、関係行政の水辺環境保全意識の高揚を目的として、楽しく活動しています。

随時会員募集中です。私たちとトンボを調べてみませんか?



2 沼田歴史散歩の会

沼田公民館

沼田歴史散歩の会は、昭和58年9月に第1歩をスタートしました。沼田町内

(大塚地区・伴地区・戸山地区)を主体として、特に神社・仏閣・墓・石碑等調査・碑文の解説など、会員間での勉強会を実施している会です。春と夏の研修旅行も行い、会員相互の親睦も図り楽しく活動しています。

毎月第1・3水曜日の午後1時半～午後3時半には、沼田公民館での学習と、第2日曜日には、現地研修を仲間と集い調査・勉強しております。

この度、35周年を記念し集大成として「沼田歴史散歩」という資料集を完成させ、安佐南区内の小・中・高・大学生に、地元歴史に子ども達が感心を示し、郷土愛に目覚めてもらいたいと願いを込め、その冊子を寄贈しました。

現会員は、ほとんどが発足時からの会員が半数を占めていることが、この会の楽しさや奥深さを物語っていると思います。

沼田歴史散歩の会では、今、50代と60代の会員を募集していますので、ぜひ私たちと歴史探訪してみませんか?



3 どじょうすくいグループ

大塚公民館

私たちは、安来節で親しまれているどじょうすくい踊りのグループです。毎月第2・4金曜日の夜、大塚公民館で活動しています。

活動の始まりは平成25年11月～12月の全6回の公民館講座でした。現在は、楽しみながら、健康維持や一芸の獲得をモットーに、老人ホームの慰問などでの技量向上を目指して日々練習しています。

どじょうすくい踊りは、愛嬌のあるひょうきんな表情と微妙な腰の動きが特徴です。見ている人に自然と笑いが生まれ、楽しい時間を過ごせます。表現がパントマイムのように分かりやすいのも魅力で、隠し芸、宴会芸など、場に応じた楽しみ方ができ、地域のイベントなどで大変喜ばれます。また、世代に関係なく誰でも楽しめて、すぐに体験できます。

見る人の心を和ませ、気持ちを明るくしてくれるどじょうすくい踊り。現在8名で

活動しています。いつでも気軽に見学に来てください。



4 戸山囲碁同好会

戸山公民館

今年3月より、戸山・久地在住の囲碁愛好者が月4回（毎週木曜日午前9時～12時）、戸山公民館に集い、囲碁同好会を開催しております。

毎回、68才～90才の10名程が参加し、和気あいあい、囲碁を楽しんでいます。（棋力：3段～5級程度）

今年は、井山七冠王が国民栄誉賞を授与され全国的に囲碁熱も高まっております。

囲碁は、自分と相手の陣地の広さを競うゲームです。囲碁の特徴・利点は、下記のとおりです。

①難しいルールはほとんどなく簡単に覚えらる。

②棋力に差が有っても、ハンディ（置石）を付すことにより、老若男女が対等に対局できる。（初心者でも高段者・プロと対局することも可能）

③良い碁を打つ、又、勝利する為に、戦略・戦術を練ることで、脳の活性化が図られ、特に高齢者の老化防止に役立ちます。

囲碁に集中しながらも、世間話に花が咲き、笑顔と笑い声の絶えない3時間です。初心者の方も、是非、ご参加ください。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 佐東公民館 …………… ☎082-877-5200
- ② 沼田公民館 …………… ☎082-848-0242
- ③ 大塚公民館 …………… ☎082-849-1841
- ④ 戸山公民館 …………… ☎082-839-3320

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。
地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

ペーパー・ムーン 代表 くら た かずたか 倉田 和峰さん

ペダルスチールギターの音色に魅了されバンド結成、 さまざまなジャンルの音楽で癒しを届ける

平成14年に結成以来、ポップスや歌謡曲、ハワイアン・ラテンなどの癒しの軽音楽演奏の活動を行っている7人組バンド「ペーパー・ムーン」。その代表を務めているのが、倉田和峰さんです。「学生時代、ペダルスチールギターの名手パディ・エモンズに憧れて、ペダルスチールギターを弾き始め、仲間とダンスバンドを結成。ダンスホールで、ポップスや歌謡曲、ルンバを中心に演奏していました。その後は社会人となり、一時期、音楽からは離れていましたが、定年後、再び作ったバンドがペーパー・ムーンです」と倉田さん。

ペダルスチールギターは、カントリーミュージックやハワイアンでよく使われ、ギターのように抱えるのではなく、水平に置いて足先や両ひざも使い演奏します。調弦が変わり、伸びやかで柔らかい音からサイケデリックで怪しい音まで、多様なサウンドを出すことができるのが特長。平成27年に人材バンクに登録後は、毎週土曜日に約5時間の練習、3ヵ月に1度、公民館のイベントやデイサービスでの演奏を行っています。

「バンドが演奏できる曲のレパートリーは、アメリカンポップスや歌謡曲などおよそ600曲。その中から、毎回聴く人によって曲を



▲公民館での演奏の様子

選んでいます」。音楽を聴いてくれる人たちが一緒に歌って楽しんでもらえるように、メンバーと意見を交わしながら選曲にも気を配っているとか。ペダルスチールギター独

得の滑らかな音色は、日本人の音感にピッタリで癒し効果もある、と考えている倉田さんは、親しみやすいアメリカンポップスや歌謡曲だけではなく、ペダルスチールギターの魅力がもっとも引き出されるカントリーミュージックも、もっと聴いて欲しいと願っています。

また倉田さんは、ペーパー・ムーンとしてのバンド活動のみならず、草津公民館でウクレレ教室の講師を務めるなど、大好きな音楽の魅力を多くの人たちに知ってもらうための活動に、積極的に取り組んでいます。

「バンド活動としては、ジャンルを問わず多くの人に癒しの音楽を届けたいと思っています。個人的には、サクソなどを取り入れた独自のサウンドを創って楽しみたいですね」と最後に倉田さんは語ってくれました。ペダルスチールギターを通して音楽の魔法にかかった少年が、時を経た今、童心に帰って夢中になり、音楽の魅力を多くの人に伝えようとする姿に、大きな夢を感じました。



▲ペーパー・ムーンのメンバー



▲ペダルスチールギターを演奏する倉田和峰さん

人材バンクの達人の探し方

その1 / 冊子(登録内容リスト)から探す

冊子「まちづくりボランティア人材バンク登録内容リスト」を毎年6月1日現在の登録情報で発行しています。登録者の活動概要、助言・指導内容、自己PR、活動条件等を掲載しています。冊子は、合人社ウェンディひと・まちプラザ(まちづくり市民交流プラザ)で無料配布しています。また、広島市内の公民館等で閲覧することもできます。

その2 / インターネット(ひろしま情報a-ネット)を探す

インターネットで検索する場合、ひろしま市民活動支援総合情報システム「ひろしま情報a-ネット」(<http://www.a-net.shimin.city.hiroshima.jp/anet/>)を使います。[講師・指導者・人材バンク]→[まちづくり・ボランティア人材バンク]→[希望のジャンル]の順にクリックします。活動概要リストが出たら、気になるタイトルをクリックすると登録内容が確認できます。

なお、登録者の名前や活動概要があらかじめ分かる場合は、[サイト内検索]を利用するとよりスムーズにお探しの情報が見つかります。

その3 / 人材バンクの紹介窓口へ問合せる

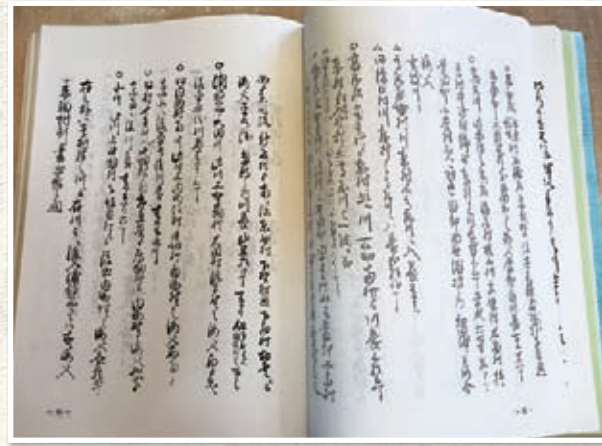
『〇〇を教えてください人を探しているけど、紹介してもらえる登録者はいる?』、『〇〇町の老人クラブのイベントに出演した〇〇さんは、人材バンク登録者だと聞いたけど、詳しい情報を教えてください』など、お気軽にお問合せください。

やま だ みちのぶ
山田 道信さん

古文書を解読することで歴史の真実を掘り起し、 古文書を楽しむことを伝えたい

古文書の解読や楽しみ方を指導しているのが山田道信さんです。山田さんは、20数年前に古文書の解読を始め、平成15年に広島県立文書館の古文書解読講座を受講、またNHK学園で古文書解読について学び、生涯学習1級インストラクターの資格を取得。当時、文科省公認の同資格取得は広島県で2番目でした。その後も古文書解読の研鑽を積み、広島県立文書館の古文書解読同好会に入会。古文書から見えた歴史を絡めた書籍を出版するほか、地域の沼田公民館を拠点に「古文書入門講座」を開き、地域の人たちを中心に古文書を解読する魅力などを伝えながら、地域の歴史を探る研究にも取り組んでいます。沼田公民館の講座をきっかけに「古文書の同好会」も発足。山田さんは立ち上げに関わり、現在も講師として活動しています。

「一番の魅力は、昔使われていた難しい文字(くずし文字)を解読し、その文書から当時の様子を窺うことができた時です。古文書の解読は知識があっても簡単にできるものではなく、一文字一文字を数種類の辞書を使って推理していく、時間のか



▲古文書

かる作業です。数人で文書を分担して解読し、解読した文書を合わせて、今度は現代の言葉に直していく。そしてやっと、一つの文書の意味を理解することができるんです」と山田さんは、古文書解読の魅力と難しさについて話してくれました。

現在、「古文書の同好会」には9人が在籍。主に江戸後期から明治時代にかけての、地域の古民家に眠っていた地方文書と呼ばれる古文書を預かり、会員で分担し解読。時には、実際にそこに記載されている史跡の探訪にもかけています。古文書にある風俗・習慣・年中行事を理解し、現在も伝承されているものに関しては実際に見学に行くことで、当時の住民の生活・習慣を深く知ることができるそうです。

「古文書に書かれていることを調べてみると、言葉の使い方から表面上だけでは分からないことを知ることができるんです。書かれた当時の人たちが、どんな考えでその文書を書いたのか。歴史の真実を掘り起こすところまで内容を広げ、意味が分かってくるとワクワクしますね」。

今後、できる限り地域に眠る古文書を発掘し、仲間と力を合わせて解読することに力を注いでいきたいそうです。関わる人の高齢化という課題はあるものの、少しでも古文書解読の持つ魅力について次の世代に伝えていきたいと語ってくれました。



▲旧矢掛本陣石井家(岡山県)の蔦姫の泊まった本陣上段の間を訪れた様子



▲沼田公民館で活動している「古文書の同好会」の皆さん。後方中央が山田道信さん

開催日時	内 容	出演者名
11月24日(土)	マジック教室	中島 幸司
12月22日(土)	お正月リース作り	舞 ひかる
1月26日(土)	シャボン玉と獅子舞	為重 清美
	バルーン教室	小林 繁子

※内容・出演者は急遽変更になる場合があります。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

合人社ウェンディひと・まちプラザ ☎(082)545-3911 ☎(082)545-3838
(まちづくり市民交流プラザ)